

秋田労災病院外来診療のご案内

平成28年12月1日現在

受付時間	初診 8:15～11:00		再診 8:15～11:30		
診療科	月	火	水	木	金
内科 [予約制]	佐々木	佐々木 熊谷	佐々木 熊谷 <small>(睡眠時無呼吸 外来は要確認)</small>	佐々木 熊谷	熊谷 秋田大学[～12時]
糖尿病・代謝内科 [予約制]	八代	八代	休診	八代	八代
内科(循環器) [予約制]	休診	休診	休診	診療応援医師 [13時30分～17時]要確認	休診
呼吸器・アレルギー外来 [予約制]	診療応援医師 [～12時]	休診	診療応援医師 [診療日は要確認]	診療応援医師 [診療日は要確認]	休診
消化器科 [内視鏡検査予約制]	診療応援医師	休診	診療応援医師	休診	休診
総合診療・ 検査診断科	休診	秋田大学 [診療日は要確認]	休診	休診	休診
外科	阿部	佐藤	阿部	佐藤	阿部
皮膚科	休診	弘前大学	休診	休診	弘前大学
整形外科	千葉 奥山 [～10時] 木戸 関 佐々木 [10時～12時]	奥山 佐々木 (秋田大学)	木戸 阿部 (秋田大学)	関 加茂 (秋田大学)	千葉 奥山 木戸 関 [～10時] 加茂 [10時～12時]
スポーツ外来 [予約制] 受付 14時～16時	休診	休診	休診	休診	関
神経内科 [予約制] 受付 13時～15時	休診	休診	休診	診療応援医師 [13時30分～]	休診
脳神経外科	神里	井上	井上	神里	秋田大学
泌尿器科	休診	診療応援医師 [診療日は要確認]	休診	秋田大学 [診療日は要確認]	休診
眼科 [予約制]	休診	休診	診療応援医師	休診	休診
耳鼻咽喉科	休診	休診	休診	秋田大学[～12時]	休診
歯科口腔外科	大淵	大淵	大淵	大淵	秋田大学

◎ 診療日等、都合により変更する場合があります。

※ 整形外科千葉副院長の診療は不定期になる場合があります。あらかじめご了承ください。

～秋田労災病院の理念～

当院は、勤労者や地域の人々の健康増進と疾病の予防・治療に取り組み、患者様の人権を尊重し、あたたかく、思いやりのある安全な医療を提供します。

「治療就労両立支援部」とは…

当院では脳卒中の**治療・リハビリ**と就労（職場復帰）の両側面から患者様を支援させていただきます。患者様のサポートは、**復職コーディネーター**が中心となって医師・看護師・リハビリスタッフ等で構成された**両立支援チーム**が協働で関わっていく部署です。

お問い合わせ先

独立行政法人労働者健康安全機構

秋田労災病院 地域医療連携室

〒018-5604 秋田県大館市軽井沢字下岱30
TEL 0186(52)3131(内線2782) / FAX 0186(47)7611

診療科目

内科、糖尿病・代謝内科、消化器科、総合診療・検査診断科、外科、整形外科、神経内科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、健康診断部、勤労者脊椎・腰痛センター、スポーツ外来、治療就労両立支援部

当院HP <http://www.akita.h.johas.go.jp>

当院facebook <https://www.facebook.com/AkitaRosai>

当院Twitter https://twitter.com/Akita_Rosai

秋田労災病院

検索

地域医療連携誌に御意見・御要望がございましたら御連絡ください。

独立行政法人 労働者健康安全機構



秋田労災病院

～地域医療連携室だより～



2017.1 発行



地域医療連携室のご案内

当院では、紹介患者の受付と院内各部署との連絡調整、他の医療機関との連絡と情報交換などを中心に、病診・病病連携の充実をはかっております。中でも、紹介元医療機関から予め患者情報を入手し、受診すべき診療科・医師とスケジュール調整をする紹介システムを導入しております。

もくじ

- 新年のあいさつ 秋田労災病院 院長 多治見公高—2
- 『北秋田市転倒予防教室、well-beingプロジェクトに参加して』
秋田労災病院 副院長 地域連携室長 千葉 光穂—3
- 外来診療のご案内 —4



新年明けまして おめでとうございます。

秋田労災病院 院長 多治見 公高



新年明けましておめでとうございます。2016年を振り返りつつ、年頭のご挨拶を申し上げます。人口減少と高齢化に対応する地域の医療供給体制のあり方についての課題が山積された中で、新しい年を迎えました。ご存知のように、昨年7月、秋田県地域医療構想（素案）で、大館・鹿角地域の医療供給体制の現場と課題として次の4点が挙げられました¹。

- ① 三次救急機能が不足しており、より高度な医療が必要な患者が他県に流出している状況です。
- ② 病院の機能分化・連携を推進していくためには、経営主体の枠組みを超えた調整が必要になります。
- ③ 開業医の高齢化や後継者不足により、今後、診療所数が減少することが予想されます。
- ④ 人口減少が公共交通機関に大きく影響を与え、通院が困難になることが懸念されます。

このうち、課題②は、国がすすめる医療改革（地域医療連携推進法人等）を受けての記載でしょう。今年は、われわれ病院と地域住民が、この地域医療連携について積極的かつ継続的に議論し、持続可能な地域医療供給体制構築の方策を見出していくことが必要なのではと考えております。もしそのような機会があれば、当院も積極的に参加し将来にわたり地域医療に貢献できるよう努力していきたいと考えています。

次に、昨年の秋田労災病院の最も大きな出来事は、開設母体である機構の改革です。それに伴い、名称が独立行政法人労働者健康福祉機構から独立行政法人労働者健康安全機構に変わりました。これは国の独立行政法人改革の一環として、（独）労働者健康福祉機構と（独）労働安全衛生総合研究所と日本バイオアッセイ研究センターの事業を一元化した結果です。

当機構の新しいミッションは、「臨床研究及び医療提供の機能並びに高度な基礎研究及び臨床研究の機能を有機的に統合し、予防、治療及び職場復帰支援を統合的に実施すること」、「労働安全衛生関係法令の改定等への科学技術的貢献を行う観点からの調査研究を実施すること」です。もちろん各労災病院のミッションは良質な地域医療を提供することですが、それに加え労災疾病に係る研究を行うということです。

われわれ秋田労災病院では、厚生労働省の労災疾病臨床研究補助金事業により、地元企業にご協力いただき勤労者の腰痛と転倒のデータベース作成（HACHICO study）を実施中です。昨年はその研究成果を院内各部門から日本職業災害医学会で報告することができました。これらの研究成果を勤労者の健康維持、疾病予防さらに安全に資することができれば幸いです。

また、大館市との共同事業として、地域住民が健康で暮らせる社会の構築を目指し、地域の65歳以上の方を対象に、“健やか人生（well-being）へのチャレンジ”を開始しました。

最後になりますが、本年も秋田労災病院は、地域医療への貢献はもとより、臨床研究ならびに地域の健康推進事業に積極的に取り組んでいます。引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

¹ 秋田県地域医療構想（素案）平成28年7月 秋田県（秋田県庁ホームページより）



『北秋田市転倒予防教室、 well-beingプロジェクトに参加して』

秋田労災病院 副院長 地域連携室長 千葉 光穂



平成28年11月17日、北秋田市で秋田大学大学院整形外科学講座と北秋田市の共催で「北秋田市転倒予防教室well-beingプロジェクト」が開催されました。

近年、介護を必要とする人や寝たきりの人が増えています。その原因として、脳卒中や認知症があります。しかし4人に一人は、「関節の痛み」や転倒による「骨折」など、骨（こつ）、関節、筋肉といった体を動かす「運動器」の障害です。最近では「ロコモティブシンドローム」といわれています。

介護が必要になる原因は脳卒中・認知症・高齢による衰弱が全体の半数を占めます。ところが残りの半数を見てみると骨折・転倒であり、関節疾患もあげられます。また寝たきりの原因の第2位は、骨粗鬆症による骨折です。

介護が必要となる原因に骨折・転倒・関節疾患があり、寝たきりの原因のひとつに骨粗鬆症があるというのは驚きです。

自分は元気だと思っても、片足立ちで靴下がはけない、家の中でつまずいたりする、階段を上るのに手すりが必要などの状態を放置していると、介護が必要になったり、寝たきりになる可能性があります。

日本では、平成17年に骨粗鬆症は1,280万人を超えています。平成27年には、65歳以上の老年人口は、3,342万人を超え、その割合が全国平均26%、秋田県平均は33.5%で秋田県は人口に占める老年人口は全国1位です。

日本人の平均寿命は、男性80.5歳、女性86.8歳まで伸び、超高齢社会になっています。一方、健康で元気でいられる健康寿命は、男性70.4歳、女性73.6歳で、平均寿命と健康寿命の差は平均10～13年あります。そのため、体を上手に使い、運動器の機能を維持することが必要になってきました。高齢者が、身体的、精神的、社会的にwell-being（健やか；すこやか）な人生を過ごせるようにするために、運動機能や精神面等も総合的に評価していくことが必要な時代という事で、このプロジェクトが始まりました。

秋田大学と労災病院の整形外科医師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士の他職種チームを作り、このチームのサポートがどう影響するかを判断し、今後の予防医学に役立てたいと思っています。他職種チームが、各ブースで指導を行い、アンケート記載に協力してもらいました。転倒の原因やその防止策、運動療法、薬剤や栄養等の必要な知識を学ばれ、健やかな人生を維持できるようにしてもらいたいと思います。半年後にもう一度再評価し、このプロジェクトが有効かどうかを判断する予定です。